

要旨

我が国においては、少子高齢化が進み、老年人口の増加に伴い、医療費が増大している。医療費の適正化と、安心・安全な医療の提供がなされるように、医療構造改革がなされ、2006 年度の診療報酬改定では、切れ目のない医療の提供、在宅医療の推進がこれからの医療体制構築の考え方として掲げられ、地域との連携は病院の重要な使命に位置づけられた。そのため、医療ニーズの高い人が多く地域に退院してきており、元来継続看護の視点から病院と地域の連携を担っていた訪問看護師は個々の患者の退院に向けて退院調整を行っているが、業務量の負担が大きくなっているために退院調整に対し不満や困難を感じている。また、訪問看護師がどのような退院調整を行っているかはあまり知られていない。

さらに、病院組織内に退院調整を専任で行う部署の設置も進んでいるが、病院と訪問看護の連携は十分とは言えない。

このような背景にあり、訪問看護ステーションにおける退院調整の課題に取り組むことは、患者・家族が望む療養生活に向けてのより良い看護提供につながり、在宅移行時の看護職の連携の在り方の検討の材料となり得ると考えると考え、研究を行うこととした。

そこで、本研究は訪問看護師が訪問看護ステーション利用者に対し行う退院調整のプロセス、退院調整にかかる仕事量について実態を整理し、訪問看護師に求められる退院調整の役割と病院との役割分担について考察することを目的とした。

研究の方法は訪問看護ステーションの訪問看護師 2 名が訪問看護の利用者に対し退院調整を行った事例 3 事例の参加観察と看護師からの聞き取りを行い、事例研究を行った。分析は、『訪問看護師の退院調整のかかわり』を分析テーマとし、看護師のアプローチや具体的支援の内容が変化する時期に着目し、段階に分け、その段階の内容を示す簡潔な文章を当てプロセスを示した。

結果、訪問看護師の退院調整プロセスは訪問看護の依頼があった時、もしくは訪問看護師が退院の可能性を感じた時から開始しており、訪問看護師は入院中も退院調整のかかわりを行っており、退院後約 2 週間で退院調整のかかわりを終了していた。訪問看護師の退院調整過程は 5 つの段階から成ることが考えられた。5 つの段階は退院調整の開始から退院までに以下の 3 つの段階がみられた。すなわち、【これまでのかかわりや関係者からの情報収集によって課題を明らかにする段階】【課題の解決に向けて調整を行い、在宅チームが機能するように働きかける段階】【具体的な介護と医療の調整を行う段階】であった。さらに、退院から退院調整終了までは以下の 2 つの段階が見られた。すなわち、【状態や症状の変化に対処しながら調整を繰り返し、生活の再構築を試みる段階】【退院調整終了の段階】であった。退院調整は看護そのものであり、退院後は訪問看護の中で調整がされた。そのために訪問看護において退院調整を行う看護師と訪問を行う看護師と役割を分けることは効果的でないと考えられた。

とくに入院してから退院調整が開始される時期は、訪問看護師が訪問看護の中で、得てきた情報を病院の看護師へ引き継ぐことで、入院の目的や、退院の意向、治療方針、退院のゴールが決まることもあることがうかがわれた。そのため、入院時に在宅から病院へ看護が継続されることが重要になると考えられた。

また、退院直後は患者や家族の変化があり、訪問看護師は訪問看護を通して、タイムリーに変化に気づき、再調整を繰り返していた。この結果から、退院調整は退院以降も続くものであり、病院から在宅へ退院時に看護が継続されることも重要と考えられた。

さらに、病院の退院調整のプロセスを示した宇都宮（2009）のプロセスと訪問看護師の行った退院調整のプロセスの内容と段階を比較したところ、病院の退院調整と訪問看護師の行った退院調整とは、内容が相似しており、求められるものはどちらも違いはないと考えられ、退院調整は病院看護師との連携と役割分担が可能であると考えた。

事例では、特に、入院時サマリーにおいて訪問看護師の持つ本人や家族の意向、入院の目的、退院の目標、関係者の受け止めやアセスメントが病院に情報提供されるとスムーズな退院調整が可能であったのではないかと考えられた。

今後ますます入退院を繰り返しながら療養生活を送る人々が増えることが予測され、看護師は、退院だけにとらわれず、病院・在宅を含め地域で循環し療養をする患者や家族に対し、療養生活を自分で選ぶことができるようにその思いを引き出しながら必要な情報を継続的に提供していき、看護の視点からアセスメントを繰り返し、必要な人的・物的なコーディネートをしていくことが必要と考えた。

今後は退院調整活動を患者中心に、訪問看護・病棟・外来・診療所など多角的な視点でとらえ、患者が療養の場や生活の場を移行する際の連携と役割分担について検討を行うことが必要となるであろう。